

第1回次世代に向けた兵庫県警察の組織の在り方を考える懇話会

会議録

(平成29年5月19日(金)開催分)

次世代に向けた兵庫県警察の組織の在り方を考える懇話会会議録（要旨）

1 開催日時

平成29年5月19日（金）午後2時00分から午後4時10分

2 場所

兵庫県公館第2会議室

3 出席者

(1) 懇話会委員(敬称略・五十音順)

庵邊典章委員(代理出席)、五百旗頭真委員(副座長)、石橋伸子委員、北村亘委員(座長)、下村俊子委員、武内重治委員、西海恵都子委員、橋本猛伸委員、原孝委員、蓬萊務委員、政井小夜子委員(代理出席)、山下淳委員、米田壯委員

(2) 警察本部

太田誠警察本部長、竹迫宜哉警務部長、松本法昭警務部参事官兼警務課長

4 会議概要

(1) 本部長あいさつ

(2) 懇話会委員及び出席者紹介

(3) 議事

ア 懇話会について

事務局から説明

イ 座長及び副座長選出

座長及び副座長のあいさつ

ウ 兵庫県警察の概要

事務局から説明

(4) フリーディスカッション

(5) 事務連絡

5 フリーディスカッションの要旨

【委員】

- ・ 平成18年度の警察署再編から10年が経過した現在では、治安は当時に比べて良くなったのか。
- ・ 人手がいる相談事案が増えて、業務負担は増加しているのか。
- ・ 採用して最初の3年間に退職者が何割出たかという統計はあるのか。どういう傾向があるのか。

【警察】

- ・ 治安については、刑法犯認知件数、事故件数等は減少しているが、110番受理件数はあまり減っていない。県民が身近に安全安心を感じられる状況にはなっていないと

考えている。それは、相談数の増加にも現れている。

- ・ 警察学校の入校中に辞める人は、ここ数年で15%から20%くらいで推移している。辞める理由は、規律が厳しい、集団生活について行けないなど、勉強について行けないような者も相当数いる。

【委員】

- ・ 組織と機能について、警察の在り方を考える上で、「組織があつて機能があるのではなく、機能、つまり果たしうる役割があつて、組織がある」と考えている。先ほどご説明があつた現状や問題点等については、兵庫県警が持つ機能上での評価ではなく、全国の警察組織と比べての評価であると感じた。
- ・ 兵庫県の地域特性を踏まえて、果たしうる役割を考えると、兵庫県特有のあるべき姿があると思う。全国と比較して評価すると大きな間違いをする。

【警察】

- ・ あくまでも平均値を示す趣旨で全国の数字も説明をした。
- ・ 兵庫県民でありながら、居住地域によって治安サービスにアンバランスが生じていることは平等の観点から見過ごすことができないと考える。
- ・ 新しい脅威に対応するためには専門的、広域的な対応が必要であるが、備えが少し劣っていると認識している。

【委員】

- ・ 組織を見直す場合、機能の観点、環境にどう対応するかが重要なので、その観点からも大きな問題というものを持っていた方が良い。
- ・ 警察行政というのは、地域差があつていいものと、困るものがある。予算がない状況でどう対応するのかという知恵の見せ所みたいな議論も必要と思う。
- ・ ある統計で、人口減少が始まり、20年後には年間予算の1割が施設更新費、現状維持で消えてしまう自治体がある。警察でもどう見通しを立てるのか考える必要がある。

【警察】

- ・ 施設については、いろんな形で長寿命化や集約化を図り、計画的かつ長期的な更新計画を作つて財政当局と協議する必要があると考える。

【委員】

- ・ 必要な警察職員の数は人口比例になるのか。
- ・ 兵庫県警は警察署員の数が少ない中、悪くない成果を収めていると思うが、特別な工夫があるのか。
- ・ 行方不明者は、何が原因か分からないから犯罪と認識は出来ないだろう。しかし、一番厳しい犯罪なのかもしれないと思う。行方不明者の率はどうなっているか。

【警察】

- ・ 全国の人口、世帯数と警察官の1人当たりの負担という数値があり、兵庫県警は、ほぼ平均である。
- ・ 行方不明者は、非常に増えている。警察は個々の状況等を聴取した上、初動でたくさんの方の警察官を出して対応する。

自分の意思なのか、何らかの犯罪に巻き込まれた可能性が高いのかを早急に把握し、犯罪の可能性があれば、さらに体制を強化して捜索をする。行方不明者の増加は一つ

の治安要因として捉えるべきと考える。

【委員】

- ・ 警察というのは安全安心を考えるとところである。効果的、効率的に一番犯罪の多い京阪神等に重点を置くというのは当然かもしれない。一方、郡部の誇りとか安全・安心の意識は違う観点で評価する必要がある。

警察は、犯罪が多いか少ないかだけではなく、住民の安心感という、他のニーズとは全く違う機能が要求される。

- ・ 国、兵庫県、警察本部に予算がない中で成果を出すため、組織と機能を再構築（リストラクチャリング）して効率化を図って重点化し、郡部とその他をリンケージしながら、かつ地方が誇りを失わないような安心感を、大事にして欲しい。

【警察】

- ・ 都市部、郡部それぞれ警察署の住民のとの関わり方、警察への期待の在り方にも差があるが、それぞれの必要性は高いと思う。施設の更新も含めて、必要性を考えていくことも一つの要素と思う。

【委員】

- ・ 限られた財政制約の中で、今後の組織の在り方を次世代に向けて考えるには、刑法犯認知件数は減っていった方が良いなどの項目をいくつか着目していく視点がある。

認知件数と同時に体感治安についても考えなければならない。

- ・ 職員のモチベーションも考えなければならない。施設であったり、機材の更新、武器がなければ何もできないので、同時に考える。

他方、アウトプットにあたる部分の業務をどうやって効率的にするのかも今後考えていかなければならない。

- ・ 人の配置などいろんなものを含むが、そういうものを限られた中で考えて、それぞれの視点で改善していく話ができれば良いという認識を持っている。全国平均とかを踏まえて、兵庫県の特性に配慮した議論が必要と思っている。

【委員】

- ・ 犯罪件数が低下しているのは確かだが、必ずしも一様ではない。

安全安心、特に安心に関する県民の理解、どう治安状況を見ているかの数字でも県内では差異があり、掘り下げていく必要がある。

- ・ 治安サービスのアンバランスでは、地域の安全安心を確保するため、警察がどの程度の活動量を期待されているのかだと思ふ。大事なのは、地域の安全安心について望ましい水準を維持することだと思ふ。警察がどこまで担うか、警察以外が地域の安全をどこまで担うかを考える。

- ・ 組織や活動を再編していくが、地域の安全安心が低下していくものではないということの説得できるかたちで、論理を組み立てなければならない。

- ・ 地域の状況なり、地域ごとの住民の安全安心の期待感、あるいは地域で担えるところを掛け合わせていくしかないと思ふ。

- ・ また、警察官の処遇というのは別枠で考えなければいけない。やる気のある若者が、警察官になりたいという職場を作らなければならない。

【委員】

- ・ 社会の変化にどう対応していくか、公共施設を人口が減っていく中でどのように維持していくか、住民への行政サービスをいかに確保し、公平に提供するか責任を持つ。
- ・ 私の地元の署は非常に小規模ではあるが、地域住民の期待度は高く、郡部に行くほど強い傾向にある。警察では出来ないところを消防団とかの連携で維持している。
数字的になかなか表せない部分が非常に大きいですが、地域に公平な行政ができるよう工夫するという点は十分に検討していただきたい。

【警察】

- ・ 警察の治安サービスというものは最後のセーフティネットであり、あらゆるところで一定のサービスを保っていくことが必要だと思っている。
人口が減少していく中で、どんな地域も切り捨てず、どうすれば今よりもサービスを向上できるのかを考えたい。

【委員】

- ・ 地域の活性化は行政が全て担う時代は終わった。地域住民が行政サービスの一翼を担わなければいけない時代が来ている。
同じように、安全安心も全てを警察に任せるのではなく、警察の経験者や、地域住民の中で、そういうことに対して積極的な人を育成して、リンケージする必要がある。
- ・ この情報化の中で、交番や駐在所には一人一台のパソコンがないということに非効率さを感じる。
- ・ 警察行政における働き方改革をどうしていくのかということと、警察組織の機能をどうするかは分けて考えなければいけない。
現場の実態と本部の組織形態の話と地域の安全安心を守るための費用配分、組織配分、機能配分は別のかたちでリンケージしていく。
警察は、スリム化して費用対効果を考えられる組織ではないかもしれないが、現実需要が増える中で、どこかで選択していかなければいけない。組織と機能を変えなければいけない。

【委員】

- ・ 駐在所の配置は、家族と同居ということであるが、配置が難しくなっていないのか。
仮に、難しいのならば1人で駐在所勤務をやろうと踏み込む考えを持っているか。
- ・ 欠員が出ることはなぜかなと思う。警察学校に入って15~20%辞める者がいることが、大きな要因なのか。
- ・ DV・ストーカー対策は難しい問題と思うが、困った人が相談に行けば、きちっと対処すべきと思う。
行政、県や市町が相談窓口を設けており、民間でもNPOでも困った方が駆け込むような機能があるので、連携を目指す必要がある。どのようなことをしているのか。

【警察】

- ・ 駐在所は275か所あり、家族と住むことが前提となっている。
駐在所の勤務員は制服を着ているんなところで活動するので、所外で活動している間は勤務員の配偶者が駐在所に来られた方の対応をしている。
- ・ 駐在所は家族で行くことが原則だが、個別事情で単身で行っているところもある。
- ・ 欠員は、警察官の定数は増やしてもらっているが、少子高齢化ということで若者の

数が減ってきており、警察官の希望者を増やすことに苦労している。

- ・ ストーカー・DV事案については、警察だけで全てが解決するものではなく、他機関と連携を図っているところもあり、兵庫県弁護士会、健康福祉事務所、兵庫県立男女共同参画センター、兵庫県女性家庭センター、市町で設置している配偶者暴力相談支援センターがある。

【委員】

- ・ 地方と都市部では温度差があり、警察も切っていくには地方から切っていく。
地方は地方の良いところがあるので、警察官が少なかったら、自治会と協力し合えば良い。地域に好かれる警察官であれば、地域の人と話し合っ、安全安心を地域と協力して守る。警察官は誇りと勇気をもって仕事をして欲しい。

【委員】

- ・ 確保した人材をいかに育てるのかを考えなければいけない。警察学校の入学式、卒業式を見ると、なぜ20%も辞めるのかと思う。卒業できる人をどう育成するかだ。
- ・ 駐在所は地域の安全安心を確保している。

【委員】

- ・ これぞ警察官のお仕事というお話だけでなく、警察職員の組織もお話ができたらいいかなと思う。

【委員】

- ・ 少子化で人口が減ってきている。
この10年間で刑法犯の認知件数が減少してきているが、体感治安との整合性は不一致である。郡部と都市部の地域間の格差があり、対応しなければいけない。
犯罪抑止という時代の中で、行政や各団体との連携が大事だと思う。